

3-2-2 札幌市都市計画マスタープラン（上位計画）

平成16年3月に策定された「札幌市都市計画マスタープラン」は、第4次札幌市長期総合計画を受けて定める都市づくりの全市的指針です。

「札幌市都市計画マスタープラン」では、これまでの拡大成長期の都市づくりから基本方向を見直し、『持続可能なコンパクト・シティへの再構築』を都市づくりの理念としています。

都市全体の視点からは、市街地の拡大抑制を基調として、既存都市基盤を有効に活用しながら都市の魅力と活力を向上させることとし、身近な地域の視点では、主として徒歩での移動が可能な身近な生活圏の中で、日常的な生活を支える多様な機能がまとまりをもって提供されることを目指しています。

また、今後の都市づくりにおいて、特に総合的な取り組みとして、「①都心の再生・再構築」「②多中心核都市構造の充実・強化」「③多様な住まい方を支える高い居住環境の実現」「④市街地の外の自然環境の保全と活用」「⑤オープンスペース・ネットワークの充実・強化」を都市づくりの力点と位置付けています。

「札幌市都市計画マスタープラン」における部門別の取り組み方針のひとつとして、「交通」を位置付けており、現行のマスタープランでは「交通」に関し、以下の基本方向を定めています。

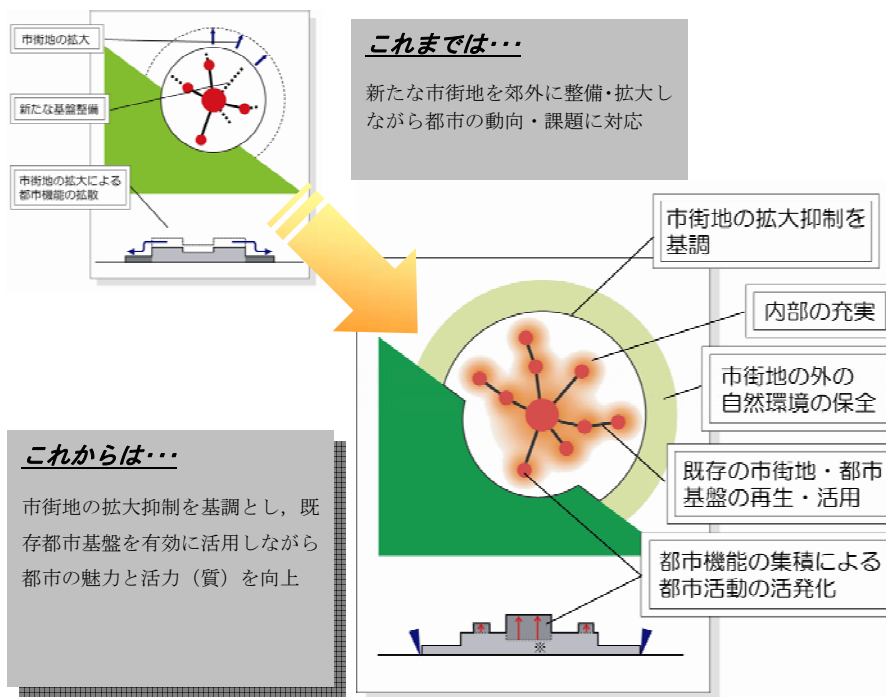
<基本方向（交通）>

■総合的な交通ネットワークの確立

- ・公共交通を軸とした交通体系を確立
- ・必要な道路の整備や自動車交通総量の低減、流れの分散化などにより適切な自動車交通を実現
- ・広域的な交通に関わる安定的で利用しやすいネットワークの確立

■地域特性に応じた交通体系の構築

- ・地域特性やまちづくりの方向を踏まえた交通体系を構築



■都市機能配置のイメージ■

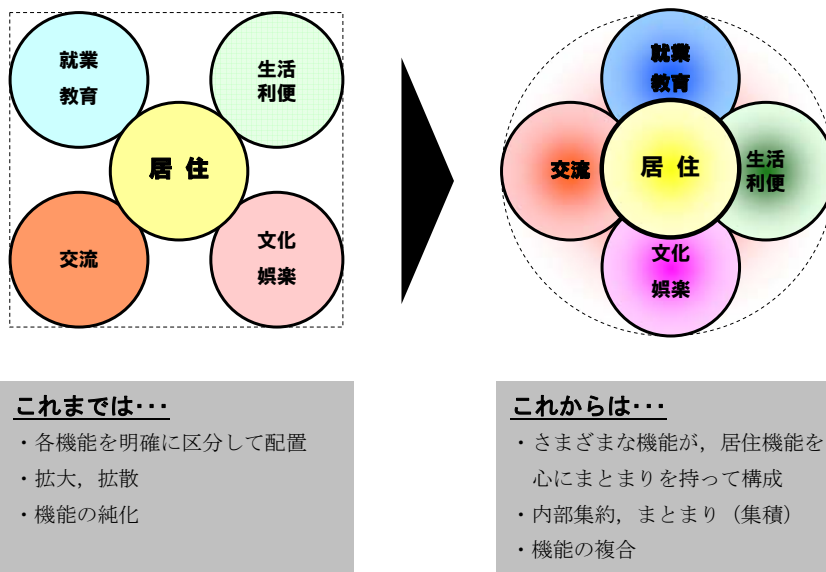


図 3-3 都市全体の視点(上図)と身近な地域の視点(下図)から見た「持続可能なコンパクト・シティ」